

2 結果の概要

(1) 全国

① 体力合計点の状況

- ・ 体力合計点については、令和4年度調査との比較では回復基調であるが、コロナ以前の水準には至っていない。
- ・ 令和4年度と比較すると、小・中学校ともに回復の度合いに男女間で差がある。

② 運動習慣等調査の状況

- ・ 体育の授業以外の運動時間は、減少傾向が続いている。
- ・ 運動意識については、小学校男子と中学校男子はコロナ以前より高まっているが、小学校女子と中学校女子は戻っていない。
- ・ スクリーンタイムは、コロナ以前から引き続き増加が続いている。
- ・ 「運動が好き」と答えた児童生徒は令和4年度との比較で男子は増加し、女子は低下している。「体育が楽しい」と答えた児童生徒は、小学校では男子は過去最高、女子は令和4年度より低下、中学校では男女とも令和4年度より低下した。

(2) 滋賀県

① 体力・運動能力調査の結果

〈体力合計点の状況〉

- ・ 令和4年度に比べて、全国は小学校女子と中学校女子が低下しているが、本県においては、中学校女子を除き、すべて上昇した。
- ・ 中学校男子は、本年度も全国平均を上回った。小学校男女、中学校女子については、全国平均を下回っているものの、令和4年度より全国平均に近づいた。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の5類感染症に移行に伴い、コロナ禍以前の活動状況に戻りつつある中で、少しずつ児童生徒の体力も向上の兆しが見られるようになった。

〈種目別の状況〉

- ・ 小学校男子：令和4年度に比べて、すべての種目において上昇した。全国平均と比較すると、50m走、立ち幅跳びは上回っている。
- ・ 小学校女子：令和4年度に比べて、長座体前屈、反復横跳び、20mシャトルラン、立ち幅跳びが上昇した。全国平均と比較すると、すべての種目において下回っている。
- ・ 中学校男子：令和4年度に比べて、持久走、20mシャトルランを除いた種目はすべて上昇した。全国平均と比較すると、上体起こし、長座体前屈、反復横跳び、50m走、立ち幅跳びは上回っている。50m走、立ち幅跳びについては、過去最高となった。
- ・ 中学校女子：令和4年度に比べて、長座体前屈、50m走が上昇した。全国平均と比べ反復横跳び、立ち幅跳びは上回っている。

② 運動習慣等調査の結果

- ・ 1週間の総運動時間は、令和4年度に比べ全国と同様に小・中学校ともに減少したが、中学校は全国平均を上回っている。
- ・ スクリーンタイムの4時間以上の割合は、令和4年度に比べ全国と同様に小・中学校ともに増加した。

- ・ 「体育が楽しい」と答えた児童生徒の割合は、令和4年度に比べ小学校男子を除き減少した。
- ・ 「運動が好き」と答えた児童生徒の割合は、令和4年度に比べ小学校男子は増加したが、中学校男子は横ばい、小学校女子と中学校女子は減少した。

(3) 今後の取組

① 授業改善

- ・ 生徒自身が「できた」「わかった」と実感でき、個に応じた授業展開ができるよう、授業改善に取り組む。
- ・ 小学校では、各校で設置している「子どもの体力向上委員会」を中心に「健やかタイムプラン」を計画・実践し、中学校では、各学校の実態に応じて「PDCAシート」を活用し、中・長期的な体力向上を図る。
- ・ 体育科、保健体育科主任研修会の開催や外部講師、県教育委員会指導主事の訪問による授業づくりの指導助言を行う。

② 運動の習慣化

- ・ 幼小期の安全な運動遊びを園児・児童や保護者、教員に指導・啓発することで、体力向上の土台をつくり、積極的な運動意欲を育む。
- ・ 教育情報誌「教育しが」やホームページにおいて、本調査結果を掲載して現状を共有するとともに、家庭でもできる運動の紹介等を行い、家庭や地域での運動遊びの推進に努める。